

北海道港湾空港建設協会

会報

令和7年1月

# 北のみなと

No.113

岩内港 (写真提供: 小樽港湾事務所)



## — 目 次 —



岩内港

岩内港は、北海道西海岸の中央に位置し、漁業基地としての充実はもとより、近年の漁業形態の変遷と産業経済の発展に伴い、当地域唯一の商港として重要な役割を果たしています。

本港は、明治39年起工、その後、昭和22年から第一埠頭の整備、埠頭物揚場の改良等、整備が進められました。また、中央埠頭が完成し、大型貨物船の入出港も可能となっています。

さらに、昭和58年から新港地区において流通拠点港としての整備を進め、平成2年7月から、水深8m岸壁の供用を開始しています。また、平成12年には特定地域振興重要港湾に指定され、平成15年より取水を開始した海洋深層水については、食品加工など様々な分野で活用されており、新港地区では海洋深層水を活用した企業等が操業を開始しています。

新春のご挨拶（北海道港湾空港建設協会 会長 藤田幸洋）…………… 1

### Report

港関係団体及び当協会と北海道開発局との意見交換会 …………… 2  
日本港湾空港建設協会連合会及び当協会と北海道開発局との意見交換会 …… 6  
港関係団体連絡会と北海道開発局担当者との意見交換会 …………… 9

### 受賞

令和6年 秋の褒章 黄綬褒章（榊吉本組 吉本正則 会長）…………… 10  
北海道水産林務部 水産土木工事等優秀業者表彰 …………… 11

### Topics

令和6年度 稚内港大規模地震・津波総合防災訓練…………… 12  
紋別港 港町地区 屋根付き岸壁 供用式典…………… 13

### 各種記事

「経済と暮らしを支える港づくり全国大会」の開催…………… 14  
我が社の安全衛生管理（株式会社森川組 代表取締役社長 森川 明紀）… 16  
私の趣味（東亜建設工業㈱ 北海道支店長 小林孝範）…………… 18

### Information

事務局だより・業界だより・広報委員会だより …………… 20

# 新春のご挨拶

## 北海道港湾空港建設協会 会長 藤田 幸洋



令和7年の年頭にあたり、謹んで新春のご挨拶を申し上げます。

当協会は、昭和61年4月設立以来、港湾空港建設技術の開発、向上に取り組み、港湾建設業の社会的地位の向上と健全な発展を図るとともに、港湾空港整備の促進に寄与することを目的として事業を推進してきたところです。

世界を見渡すと、終わりの見えないウクライナ情勢、イスラエルとハマスの衝突、シリア独裁政権の崩壊等、世界情勢は様々な動きを見せており、食糧やエネルギーの安定供給をはじめ、世界経済に影響を与える様相を呈しています。

国内においては、令和6年1月1日に発生した能登半島地震により地域に甚大な被害が発生、さらに9月には同地域に追い打ちを掛けるような豪雨災害が発生、多くの方々被災を受けたことに心からお見舞い申し上げますとともに一刻も早い復興を祈念しています。北海道においても頻発する豪雨災害や発生が想定される日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震への対応が喫緊の課題です。

一方、新型コロナウイルス感染症により減少した観光需要は、増加の一途を辿っており、クルーズ客船の北海道内港湾への寄港隻数も昨年は完全に回復しました。函館港や小樽港などにおける受入環境整備がその一翼を担ったものであります。

国土交通省港湾局は令和7年度予算の基本方針として、「持続的な経済成長の実現」、「国民の安全・安心の確保」、「個性を活かした地域づくりと分散型国づくり」を3本柱としており、強靱なサプライチェーンの構築やサイバーポートの構築推進とともに、カーボンニュートラルポートの形成、洋上風力発電の導入促進など、港湾機能の強化を通じた我が国経済の持続的な成長を支える基盤づくりを進めます。

また、令和6年能登半島地震も踏まえつつ、ハード・ソフト一体となった総合的な防災・減災対策を重点的かつ集中的に講じるとともに、予防保全型老朽化対策、気候変動を考慮した臨海部の強靱化を推進するとしています。

北海道は、我が国最大の食糧基地であり、港湾・空港・漁港は優良な農水産品等の国内外への供給物流拠点として、また、広域観光の基盤となる社会資本として、極めて重要な役割を担っています。

このため、生産空間の維持・発展による食糧安全保障及び観光立国の一層の強化として、離島交通機能の確保、港湾物流機能の強化、農水産物の輸出促進、クルーズ船受入環境の整備等にも貢献するとともに、ゼロカーボン北海道の実現に向けた再生可能エネルギーの導入拡大、強靱な国土づくりに向けた、高潮・高波・暴風対策等による海上輸送ネットワークの強化、インフラの老朽化対策等に取り組んで参ります。

北海道における港湾空港関係の建設業界は、働き方改革や現場の生産性向上、担い手の確保などの課題に取り組み、地域の守り手として安心、安全を継続的に確保する重要な使命を果たし、社会資本整備を通じて各地域の発展に寄与する必要があります。また、地域の「みなと」は、そこで働く人が生活の糧を得る場のみならず、地域住民が気軽に寄り添える場とすることが非常に重要であると考えており、何らかの対応をしていきたいと思っています。

本年も会員の皆様のご理解とご協力をいただきながら事業に取り組んで参る所存です。

会員の皆様の一層のご支援ご協力をお願いしますとともに、新しい年が皆様にとりまして、健康で希望に満ちた幸多い年となりますことを心より祈念いたします。

# 港関係団体及び当協会と 北海道開発局との意見交換会

令和6年12月12日（木）、ホテルポールスター札幌において、港関係団体と当協会の共催により、国土交通省北海道開発局と「港湾・空港・漁港事業に関わる意見交換会」を開催しました。

出席者及び意見交換の内容は以下のとおりです。

## 港関係団体及び当協会と北海道開発局との 意見交換会出席者

### 1.北海道開発局（9名）

港湾空港部長	佐々木 純
港湾行政課長	先川 光弘
港湾建設課長	星 道太
港湾建設課長補佐	石山 祐司
港湾建設課専門官（実施）	中村 友哉
港湾建設課課員（実施）	谷 昂祐
空港・防災課長	齋藤 輝彦
農業水産部水産課長	西崎 孝之



藤田会長挨拶

### 2.港関係団体

北海道港湾空港建設協会	
会長	藤田 幸洋
副会長兼技術委員長	坂 昭弘
（一社）北海道建設業協会	
港湾・漁港部会副部会長	數土 勉
積算専門委員長	柏葉 導徳
（一社）全日本漁港建設協会	
北海道支部長	西村 幸浩
副支部長	吉本 貴昭
（一社）日本埋立浚渫協会	
北海道支部長	小林 孝範
技術委員長	箱崎 篤志
（一社）日本海上起重技術協会	
北海道支部長	藤田 幸洋
副支部長	濱谷 美津男
全国浚渫業協会	
北海道支部長	西村 幸浩
（一社）日本潜水協会	
北海道支部長	堀松 誠
港関係団体連絡会	
会長	宮部 秀一



意見交換会の様子

## 要望の背景等

平素は、当協会の業務運営に関しまして格別のご指導ご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

当協会は、昭和61年4月設立以来、港湾空港建設技術を開発、向上させ、港湾空港建設業の社会的地位の向上と健全な発展を図るとともに、港湾・空港・漁港整備の促進に寄与することを目的として事業を行ってきたところです。

北海道における港湾・空港・漁港は、北海道が我が国最大の食糧基地であり、優良な農水産品等の国内外への供給物流拠点として、また、広域観光の基盤となる社会資本として極めて重要な役割を担っております。

会員各社が取り組んでいる働き方改革、担い手の育成・確保、生産性の向上を進めつつ、港湾・空港・漁港の整備及び老朽化施設を含む施設の機能強化は、食と観光を担う北海道が、活力があり安全で魅力のある地域となるために極めて重要であります。また、今年度から時間外労働の罰則付き上限規制の適用が始まりましたが、海上工事等時間的な制約の多い作業を行う港湾・空港・漁港建設業にとっては、まだまだ解決すべき点が多い重要課題であります。

会員各企業は、こうした要請に応え、地域の安全・安心の守り手として重要な使命を果たすため、一層の努力を重ね、各地域の社会資本整備を通じて地域の発展に寄与する役割を果たして参る所存であります。

会員各企業における懸案事項について、下記のとおり要望いたしますので格別のご高配を賜りますようお願い申し上げます。

## 要 望 事 項

### 1 港湾・空港・漁港建設業の体制の確保について

周囲を海に囲まれた北海道においては、国内外との物流の殆どを海上輸送に依存していますが、地域の基幹産業の競争力強化、農水産物の輸出力の強化、増加するクルーズ船の受け入れ機能の整備、離島の安定的生活の確保や防災・減災、国土強靱化を図るため、港湾・空港・

漁港（漁場含む）は極めて重要な社会資本であり、施設の整備及び機能強化を推進することが必要と考えております。また、北海道のインバウンド観光の回復・振興に対応した機能の強化、国内外の航空ネットワークの強化を図るため、広域観光の基盤となる空港施設の更新・改良を推進することが必要と考えております。

つきましては、事業の計画・実施に向けての課題検討にあたり、「将来の北海道を支える港湾・空港・漁港建設業の体制を考える研究会」を官民協働の検討の場として活用することを考えていただきたい。

もとより、会員各企業は、安定的・持続的な経営の下で社会資本整備を通じて地域の発展に貢献する役割を適切に担って参りたいと考えております。

#### (1) 港湾・空港・漁港事業の着実な実施について

中長期事業の見通しが重要であるため、港湾計画、漁港漁場整備計画への位置付け等を行い、具体的な事業実施のための予算確保をお願いします。

また、働き方改革、生産性向上など業界全体の取組みをより確実なものとするため、国直轄事業のみならず港湾管理者の事業も含めた意見交換や国直轄事業の取組みが港湾管理者にも導入されるよう積極的な助言をお願いします。

#### (2) 適正な利潤を見込める事業実施について

港湾・空港・漁港建設業が技術力と施工能力を維持するためには、人材の確保・育成、施工技術の開発・保持等への継続的な投資が必要です。将来への投資が着実に行えるよう、受注工事において適切な利潤を見込める工事の設計、発注をお願いします。特に実態と異なる設計歩掛や実勢と乖離する市場単価の見直し、作業船損料の更なる適正化、労務単価の改善、及び諸経費率の抜本的な見直しをお願いします。諸経費検証モデル工事の実施にあたっては、元請け及び下請けの負担の一層の軽減等の対応をお願いします。

また、広大な北海道及び地域性を反映した市場単価の見直しやゾーン単価の見直しをお願いします。

#### (3) 作業船を保有・維持できる環境の整備について

作業船は、港湾・空港・漁港建設業にとって最も重要な活動基盤であるとともに、流出物の回収など

緊急時は地域の安全・安心を確保するために活躍しており、地域の重要な社会インフラの一つであるといえます。平時から安定的に作業船の保有・維持が行える体制保持のための環境整備をお願いします。特に実勢に応じた作業船基礎価格の引き上げや損料算定、関係労務費の改善、新造・改造を促進する支援制度の拡充を行うとともに、作業船が稼働できる事業による工事発注をお願いします。また、恒久的に係留可能な作業船基地の整備にあたり、係留費用の軽減、利便性の高い係留場所の確保、他港から来た作業船の係留場所の確保などの取組みをお願いします。さらに担い手を確保し、乗組員の処遇を改善するため、作業船団を指揮・監督する者（船団長）に対し、高級船員を上回る職責に見合う労務単価や手当を設定する等の取組みをお願いします。

## 2 港湾・空港・漁港建設業の働き方改革の推進について

港湾・空港・漁港建設業が将来にわたり社会資本整備を通じて地域の発展に寄与する役割を果たし、健全な発展をなすためには、建設業における働き方改革の実現に向けた取組みが重要であります。

### (1) 適正な工期の設定について

週休2日の実現や適正な利潤の確保には、工期の設定が最も重要な事項となっています。工事発注にあたっては、当初工期を遵守するため、気象・海象の影響や発注時点における現場の制約等の現場条件を的確に反映したより適正な工期設定とともに、北海道の各海域における工事適期を逃さない早期発注をお願いします。また、工期延伸に伴い必要となる現場管理費等の経費について、適切に計上するようお願いします。

### (2) 業務の効率化の徹底について

週休2日の確保が着実に進む一方、現場技術者の残業時間については十分な削減となっていません。今年度から時間外労働の罰則付き上限規制の適用も始まり、引き続き現場管理業務の効率化に向けた抜本的な対応をお願いします。

特に電子検査、電子納品の活用の更なる徹底に加

え、現場管理業務における作成書類に関しては、個々の書類の必要性を継続的に検討いただき、削減の徹底をお願いします。また、その際、発注者が定める基準類を見直すことで、新たな技術を活用しやすい環境を積極的に整えるなど、業務の一層の効率化に向けた支援についても取組みをお願いします。

## 3 港湾・空港・漁港建設業の生産性の向上について

建設業の生産性の向上は、週休二日等の働き方改革の達成、担い手の確保・育成のためにも強力に推進すべき事項であり、現場技術者の負担軽減のため、徹底した現場業務の効率化を進める必要があります。

### (1) ICT活用による生産性向上について

港湾・空港・漁港建設業の生産性向上のためには、工事工程の様々な場面においてICT導入が不可欠ですが、大手に比べ中小企業では、ICT導入が遅れがちです。このため、規模が比較的小さい工事、あるいは中小企業に対して、ICT導入を積極的に進められるよう事業実施における支援措置や簡便なICT機器を活用できる施工管理等の基準類の整備をお願いします。

また、中小企業におけるBIM/CIMの適用にあたっては、必要な支援措置をお願いします。

### (2) 適切な設計変更について

設計変更は、ほぼ全ての工事で行われており、その適否が工事で得られる利潤のみならず、担当技術者の業務量にも大きな影響を与えています。このため、発注時点において現場の実態にあったより正確な工事設計を行っていただくとともに、調査設計に要した経費、実際にかかった工事費用の計上、受発注者間の設計変更書類作成ルール徹底等、設計変更手続きの適正化をお願いします。また、「工事円滑化会議及び設計変更確認会議」を効果的に活用し、設計変更に要する時間や協議資料作成に関わる作業の削減をお願いします。

### (3) 入札事務手続きの改善について

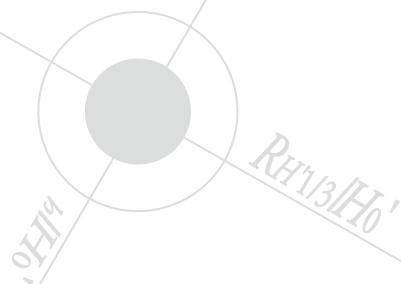
働き方改革、担い手不足への対応のためには、入札事務の効率化、入札期間の適正化が必要です。

このため、発注見通しの充実・統一化が図られつつありますが、引き続き詳細な公表の充実・統一化の徹底をお願いします。また、入札参加者の負担軽減と技術者等の人材の有効活用のため、入札予定の公表を可能な限り早期をお願いします。

(4) プレキャスト化の推進について

港湾局における「港湾工事におけるプレキャスト工法導入検討マニュアル（試行版）」整備を受けて、北海道においてもプレキャスト工法の導入促進に向けた検討会が開催され、北海道版のマニュアル整備に向けた検討が進んでいると聞き及んでおりますが、北海道版のマニュアル整備にあたっては、幅広い工種への採用のほか、特に、積雪寒冷時期にかかる現場打ちコンクリート製品のプレキャスト化と現場における防寒養生を要しない工場製作でのプレキャスト化の積極的な採用に配慮いただくようお願いします。

また、プレキャスト化の検討にあたっては、工事受注後の検討では、大幅な施工機械、作業員の変更及び仮設材の手配等、工程管理に甚大な影響が生じることから、設計段階での事前検討を経て発注いただきますようお願いいたします。



# 日本港湾空港建設協会連合会及び 当協会と北海道開発局との意見交換会

令和6年12月11日（水）ホテルポールスター札幌において、日本港湾空港建設協会連合会と当協会の共催により、国土交通省北海道開発局と意見交換会を開催しました。

出席者及び意見交換の内容は以下のとおりです。



藤田会長挨拶



北海道開発局の方々



日港連の方々

## 日港連 要望・意見交換会出席者

### 1.北海道開発局（9名）

港湾空港部長	佐々木 純
港湾計画課長	櫻井 義夫
港湾行政課長	先川 光弘
港湾建設課長	星 道太
港湾建設課長補佐	石山 祐司
港湾建設課専門官（実施）	中村 友哉
港湾建設課課員（実施）	谷 昂祐
空港・防災課長	齋藤 輝彦
農業水産部水産課長	西崎 孝之

### 2.日本港湾空港建設協会連合会（7名）

会長	津田 修一
専務理事	加藤 雅啓
技術委員会 委員長	大滝 雅宣
技術ワーキング委員会 委員長	浅野 恒平
技術ワーキング委員会アドバイザー	戸嶋 真人
労働・安全・税制部会 部会長	水口 倫太郎
労働・安全・税制部会 委員	中村 誉之

### 3.北海道港湾空港建設協会（17名）

会長	藤田 幸洋
副会長	西村 幸浩
副会長	小林 孝範
副会長	吉本 貴昭
副会長兼技術委員長	坂 昭弘
技術委員会 副委員長	梅沢 信敏
委員（部会長）	柿崎 永己
委員（副部会長）	秋浜 政弘
委員	岩城 儀人
委員	竹中 正
委員	阿部 勝
委員	齊藤 勝司
委員	宮部 秀一
委員	松尾 吉将
委員	矢野 隆博
委員	根本 任宏
委員	三原 一憲（事務局長）



## 要望の背景等

平素より日港連の活動に深いご理解と温かいご指導を賜り、厚く御礼申し上げます。

日本港湾空港建設協会連合会は、港湾空港整備を担う建設業者が加入する全国の都道府県協会を結集して設立された団体で、1984年（昭和59年）の発足以降、当連合会の会員各社は一貫して我が国の経済、産業を支える港湾・空港インフラの整備を担い、また、災害時には復旧・復興に携わることにより、我が国の経済社会の発展に寄与して参りました。

現在、我が国は、感染症の蔓延やロシア・ウクライナ戦争など世界規模のリスクで明らかとなったサプライチェーンの強靱化への要請や、脱炭素化・デジタル化の加速へ対応するとともに、今年1月に発生した能登半島地震による甚大な被害を鑑みて、頻発化・激甚化・広域化する災害に対する即応体制の整備や防災・減災対策を強力に進めることが求められております。

このような社会の状況にあって、港湾空港建設業が将来にわたり経済社会の発展に寄与し続けるため、現在、会員各社が取り組んでいる働き方改革、担い手の確保・育成、生産性の向上を進め、企業経営の安定的な基盤を確保することが重要であります。特に、海上工事において作業船が大きな役割を果たしている港湾空港建設業においては、事業の実施を通じて適正な利潤を得て、それを将来の作業船の保有、施工技術・能力の向上につなげていく企業活動の継続性が何より大切であります。また、今年度から時間外労働の罰則付き上限規制の適用が始まりましたが、港湾空港建設業は海上工事等時間的な制約のある作業が多く、依然として重要な課題であります。

つきましては、私どもの事業実施上の懸案事項に関し、下記のとおり要望申し上げます。要望の内容は、毎年実施している日港連の実態調査に基づくものであり、まさに会員会社の声であります。それぞれの項目に対しまして、対応の方向性を示す具体的なお回答を頂くことが、日港連会員会社の活動の活発化を促し、着実な港湾・空港のインフラ整備につながるものであります。格別のご高配を賜りますようお願い申し上げます。

## 要望事項

### 1. 港湾空港建設業の体制の確保

#### (1) 港湾空港事業の着実な実施

港湾空港建設業の健全な発展のためには、将来の見通しが重要であり、「経済財政運営と改革の基本方針2024」でも「民間事業者が安心して設備投資（作業船等の資機材の確保を含む）や人材育成を行うことができるよう、中長期的な見通しの下、安定的・持続的な公共投資を推進しつつ、戦略的・計画的な取組を進める。」とはじめて言及されました。中長期事業の見通しを港湾計画に位置付けするとともに、具体的な事業実施のための予算確保をお願いします。

また、働き方改革、生産性向上など業界全体の取り組みをより確実なものとして行くためには、発注者の理解のもと関係事業全体に広げていくことが重要です。このため、国直轄事業のみならず港湾管理者の事業も含めた意見交換の実施や、これまでの要望を反映していただいた国直轄事業の取り組みが港湾管理者の事業にも導入されるよう積極的な助言をお願いします。

#### (2) 適正な利潤を見込める事業実施

港湾空港建設業が技術力と施工能力を維持するためには、人材の確保・育成、施工技術の開発・保持等への継続的な投資が必要です。将来への投資が着実に行えるよう受注工事において、適正な利潤を見込める工事の設計、発注をお願いします。

特に、実態と異なる設計歩掛や実勢と乖離する市場単価の見直し、低入札調査基準価格の引き上げ、作業船損料の更なる適正化、労務単価の改善、及び諸経費率の抜本的な見直しをお願いします。諸経費検証モデル工事の実施にあたっては、元請け及び下請けの負担の一層の軽減等の対応をお願いします。

#### (3) 作業船を保有・維持できる環境の整備

作業船は、港湾空港建設業にとって最も重要な活動基盤であるとともに、流出物の回収など緊急時は地域の安全・安心を確保するために活躍しており、地域の重要な社会インフラの一つであるといえま

す。このため、各地で懸念される災害発生時に作業船の確保が円滑に行えるよう、平時から安定的に作業船の保有・維持が行える体制保持のための環境整備をお願いします。

特に、実勢に応じた作業船基礎価格の引き上げや損料算定、関係労務費の改善、新造・改造を促進する支援制度の拡充をお願いします。また、恒久的に係留可能な作業船基地の整備にあたり、係留費用の軽減、利便性の高い係留場所の確保のほか、他港から来た作業船の係留場所の確保などの取り組みをお願いします。さらに、担い手を確保し、海上工事に従事する乗組員の処遇を改善するため、海上工事に不可欠な作業船団を指揮・監督等する者（船団長等）に対し、高級船員を上回る職責に見合う労務単価や手当を設定する等の取り組みをお願いします。

## 2. 港湾空港建設業の働き方改革の推進

### (1) 適正な工期の設定

週休2日の実現や適正な利潤の確保には、工期の設定が最も重要な事項となっています。

このため、工事発注にあたっては、当初工期を遵守するため、気象・海象の影響や発注時点における現場の制約等の現場条件を的確に反映したより適正な工期設定をお願いします。また、工期延伸に伴い必要となる現場管理費等の経費について、適切に計上するようお願いします。

### (2) 業務の効率化の徹底

週休2日や休日の確保が着実に進む一方、現場技術者の残業時間は必ずしも十分な削減が進んでいません。今年度から時間外労働の罰則付き上限規制の適用も始まり、引き続き現場管理業務の効率化に向けた抜本的な対応をお願いします。

特に、電子検査、電子納品の活用の更なる徹底に加え、現場管理業務における作成書類に関しては、個々の書類の必要性を継続的に検討いただき、削減の徹底をお願いします。また、その際、発注者が定める基準類を見直すことで、新たな技術を活用しやすい環境を積極的に整えるなど、業務の一層の効率化

に向けた支援についても取り組みをお願いします。

## 3. 港湾空港建設業の生産性の向上

### (1) ICT活用による生産性向上

港湾空港建設業の生産性向上のためには、工事工程の様々な場面においてICT導入が不可欠ですが、大手に比べ中小企業では、ICT導入がどうしても遅れがちです。このため、規模が比較的小さい工事、あるいは中小企業に対して、ICT導入を積極的に進められるよう事業実施における支援措置や簡便なICT機器を活用できる施工管理等の基準類の整備をお願いします。また、中小企業におけるBIM/CIMの適用にあたっては、必要な支援措置をお願いします。

### (2) 適切な設計変更

設計変更は、ほぼすべての工事で行われており、その適否が工事で得られる利潤のみならず、担当技術者の業務量にも大きな影響を与えています。

このため、発注時点において現場の実態にあった、より正確な工事設計を行っていただくとともに、調査設計に要した経費、実際にかかった工事費用の計上、受発注者間の設計変更書類作成ルールの徹底等、設計変更手続きの適正化をお願いします。また、品質確保調整会議を効果的に活用し、設計変更に要する時間や協議資料作成に関わる作業の削減をお願いします。

### (3) 入札事務手続きの改善

働き方改革、担い手不足への対応のためには、入札事務の効率化、入札期間の適正化が必要です。

このため、発注見通しの充実・統一化が図られつつありますが、引き続き、より詳細な公表の充実・統一化の徹底をお願いします。また、入札参加者の負担軽減と技術者等の人材の有効活用のため、入札予定の公表を可能な限り早期をお願いします。

#### 【参考】特定技能外国人の受入について

担い手の確保を図るため、特定技能外国人の受入を進める上で一層の環境整備が必要です。

# 港関係団体連絡会と 北海道開発局担当者との 意見交換会

港関係団体連絡会は令和6年11月26日（火）ホテルマイステイズ札幌アспенにおいて、北海道開発局と「令和6年度港湾・空港・漁港工事に関する意見交換会」を開催しました。

北海道開発局から港湾空港部 道太港湾建設課長、櫻井義夫港湾計画課長、先川光弘港湾行政課長、斎藤輝彦空港・防災課長、農業水産部西崎孝之水産課長など8名が出席、港関係団体連絡会から宮部秀一会長、柏葉導徳副会長など港関係7団体から13名が出席して「入札・契約に関する項目」「設計・施工に関する項目」について意見交換会を行いました。

主な項目は以下のとおりです。



意見交換会の様子

## 入札・契約に関する項目

1. 地元企業に配慮した工事発注について
2. 工事成績評定点について
3. 書類の簡素化について
4. 概略工程表開示試行工事について
5. 浚渫工事における工事費内訳書について
6. 見積書作成期間の確保について

## 設計・施工に関する項目

1. 官積算と実態の乖離について
  - ①遠隔地における労働者確保について
  - ②石材ゾーン単価

- ③遠隔地における建設機械運搬費について
- ④地域性を反映した市場単価の採用
2. 小規模施工における積算について
3. 荒天リスク清算型試行工事について
  - ①対象工事の拡大
  - ②不稼働日の考え方
4. 設計変更に伴う図面作成、数量算出について
5. 海上作業時における安全監視員の配置について
6. 各種試行工事費用の積算計上について
7. 構造設計時におけるプレキャスト工法の検討について
8. (工程提示型+休日確保評価型) 試行工事における休日の緩和について
9. 港湾部門における建設部毎の意見交換会実施について
10. 構造設計段階における施工性を考慮したVFM検討について

# 令和6年 秋の褒章受章者 (株)吉本組 吉本正則会長が黄綬褒章を受章

令和6年秋の褒章受章者が発表され、(株)吉本組の吉本正則会長が港湾建設業業務精励により、黄綬褒章を受章されました。

吉本会長は、昭和44年、(株)吉本組代表取締役役に就任し、重要港湾石狩湾新港や地方港湾岩内港等、北海道内港湾の整備促進、保有起重機船の主機関改良による環境負荷低減の積極的な取り組みなど港湾建設業の発展や地位の向上に貢献されたことが高く評価されました。



(株)吉本組  
代表取締役会長  
**吉本 正則 氏**  
生年月 昭和18年 4月

- |            |          |   |
|------------|----------|---|
| <b>学 歴</b> | 昭和36年 3月 | 小樽千秋高等学校 卒業                             |
| <b>職 歴</b> | 昭和36年 4月 | 吉本組 入社<br>(昭和44年 2月26日より株式会社吉本組に社名変更)   |
|            | 昭和44年 2月 | 株式会社吉本組 代表取締役                           |
|            | 平成28年 4月 | 同上 代表取締役会長 現在に至る。                       |
| <b>団体歴</b> | 昭和58年 3月 | 岩内建設業協同組合 専務理事                          |
|            | 令和 2年 8月 | 岩内建設業協同組合 代表理事                          |
|            | 昭和62年 1月 | 小樽建設協会 副会長                              |
|            | 平成24年 2月 | 小樽建設協会 会長                               |
|            | 令和 2年 1月 | 小樽建設協会 顧問                               |
|            | 平成24年 2月 | (社団法人)北海道建設業協会 理事(～令和元年12月)             |
|            | 平成14年 4月 | 北海道港湾空港建設協会 副会長(～平成30年 4月)              |
|            | 平成15年 6月 | 社団法人日本海上起重技術協会北海道支部 副支部長<br>(～平成29年 4月) |
|            | 平成17年 6月 | 社団法人全日本漁港建設協会 北海道支部 副支部長<br>(～平成28年 5月) |
|            | 昭和51年 4月 | 岩内商工会議所 常議員(～平成28年10月)                  |
|            | 平成19年11月 | 岩内商工会議所 議員会長(～平成28年10月)                 |
|            | 平成28年11月 | 岩内商工会議所 名誉議員                            |
|            | 昭和58年 1月 | 若旺会 会長                                  |
| <b>賞 罰</b> | 平成 7年 5月 | 日本港湾空港建設協会連合会会長表彰                       |
|            | 平成15年 5月 | 全日本漁港建設協会会長表彰                           |
|            | 平成16年 9月 | 日本商工会議所永年勤続表彰                           |
|            | 平成18年 7月 | 国土交通省北海道開発局長表彰                          |
|            | 平成19年 5月 | 社団法人日本港湾協会表彰                            |
|            | 平成26年 7月 | 国土交通大臣表彰                                |
|            | 平成27年 2月 | 北海道知事 産業貢献賞                             |
|            | 令和 4年11月 | 岩内町 文化賞                                 |

# 北海道水産林務部 令和6年度 水産土木工事等 優秀業者表彰

北海道水産林務部は、令和6年度水産土木工事等優秀業者感謝状の贈呈式を12月17日（火）ホテル札幌ガーデンパレスで挙行了しました。同部所管の令和5年度完成工事等において、その功績がきわめて顕著で、水産林務行政の推進に貢献した工事部門20社、委託部門2社に知事感謝状が手渡されました。表彰された優秀業者のうち、水産土木部門では当協会員、勇建設(株)、藤建設(株)、北興工業(株)、(株)南組、(株)本田組、真壁建設(株)の6社が受賞しました。

## 【水産土木部門受賞】

勇建設(株) (札幌市)	代表取締役社長 坂 昭弘
藤建設(株) (稚内市)	代表取締役社長 藤田 隆明
北興工業(株) (室蘭市)	代表取締役社長 宮崎 健悟
(株)南組 (様似町)	代表取締役社長 南 修
(株)本田組 (釧路市)	代表取締役 本田 秀樹
真壁建設(株) (根室市)	代表取締役 山下 大介

RH13/H0

1/H0



(写真提供：北海道水産林務部)

# 令和6年度 稚内港大規模地震・津波総合防災訓練

令和6年8月31日、北海道北西沖を震源とする大規模な地震及び津波発生を想定し、防災関係機関の連携体制強化と防災技術の向上を目的とした「稚内港大規模地震・津波総合防災訓練」が稚内港末広ふ頭東岸壁において実施されました。

訓練は北海道開発局、稚内開発建設部及び稚内市が主催し、海上保安庁、陸上自衛隊、北海道警察をはじめ港湾関係建設業界、コンサルタント等、20機関約100名が参加しました。

主な訓練内容は避難訓練、被災状況調査訓練をはじめ、当協会をはじめとする港湾関係団体による航路啓開訓練等が実施されました。



林稚内開発建設部長による訓練開始宣言



航路啓開訓練



佐々木港湾空港部長による講評

# 紋別港 港町地区 屋根付き岸壁 供用式典

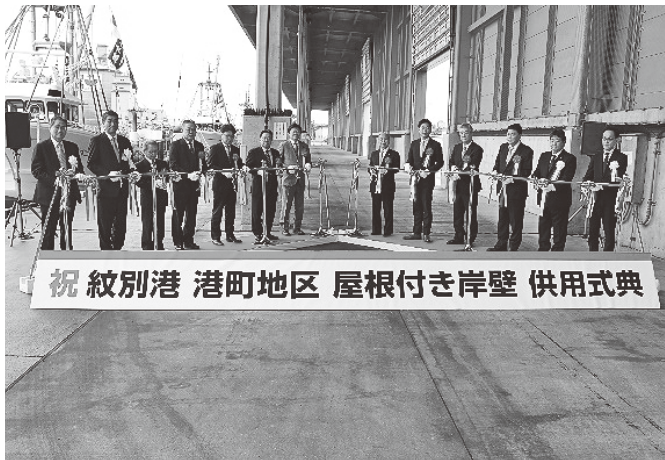
令和6年11月17日、平成29（2017）年度から「農水産物輸出促進計画」に基づく整備が進められてきた「紋別港港町地区屋根付き岸壁」供用式典が紋別市及び網走開発建設部主催により、国会議員をはじめ、約70名出席のもと開催されました。

既存の岸壁は、①建設後60年以上経過し、コンクリート及び防舷材等、付属工の劣化、②降雪、強風による水揚げ作業効率の低下、③野鳥の糞尿等、異物混入による品質低下等の課題がありました。

このため、品質・衛生管理の強化を目的に屋根付き岸壁が整備されました。

10月に完成した物揚場（-4m）312mのうち、210m区間に高さ10.7m、7か所の車両出入口を設けた屋根を整備、同時に7隻の漁船が係留、荷役可能な構造になっており、屋根は運搬用トラック2台が通行可能な幅を確保するとともに、ホタテ荷役用のクレーン作業に支障としない高さを確保しています。

宮川紋別市長は「水揚げから加工流通まで、ハサップ（HACCP）認証に適応した一連の流通が完結し、輸出拡大の追い風になるものと大いに期待している。」との式辞を述べられました。



テープカット



屋根付き岸壁

（写真提供：網走開発建設部）

REH13/H0'

13/H0'

# 「経済と暮らしを支える港づくり全国大会」の開催

(公社)日本港湾協会、全国港湾知事協議会、港湾都市協議会、日本港湾振興団体連合会、港湾海岸防災協議会の港湾関係5団体は、「令和6年度経済と暮らしを支える港づくり全国大会」を11月28日(木)東京・赤坂のANAインターコンチネンタルホテルで開催しました。

開会にあたり主催者を代表して、進藤孝生日本港湾協会会長、岸本周平全国港湾知事協議会副会長(和歌山県知事)、楠瀬耕作港湾都市協議会副会長(須崎市市長)、徳水繁樹日本港湾振興団体連合会副会長(今治市長)が挨拶を述べられました。遠藤譲一港湾海岸防災協議会副会長(久慈市長)が紹介されました。

来賓として中野国土交通大臣、続いて森山裕自民党港湾議員連盟会長・港湾海岸防災協議会会長、西田実仁公明党海事・港湾振興議員懇話会幹事長が祝辞を述べられました。そのあと、稲田国土交通省港湾局長から港湾行

政の報告として、令和7年度予算要求の重点施策を説明され、続いて4名の方から港湾整備・振興に関する意見発表が行われました。ここで、「港湾整備・振興に関する要望書」の提案を行い満場一致で決議されました。

これを受けて、進藤孝生日本港湾協会会長から高橋副大臣、吉井政務官、国定政務官、高見政務官に要望書が手渡されました。

## 要 望 事 項

1. 持続的な経済成長の実現
2. 国民の安全・安心の確保
3. 個性をいかした地域づくりと分散型国づくり

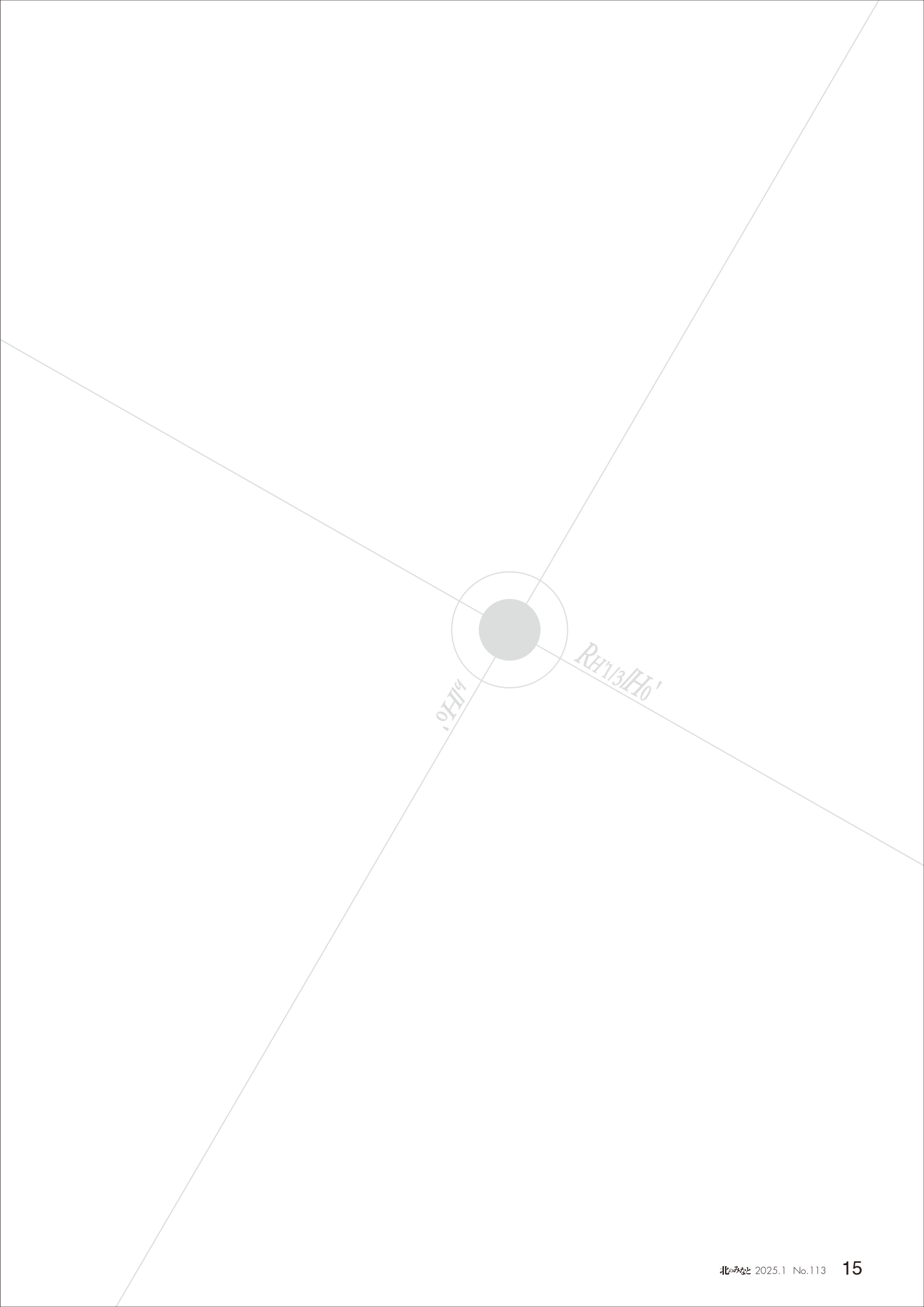


主催者挨拶をする進藤会長



高橋副大臣への要望書手交





# 我が社の安全衛生管理

株式会社森川組 代表取締役社長 森川 明紀



## 1. はじめに



当社は、明治25年（1892年）に道南の函館において総合建設業として創業しました。

これまでに地元の方々と132年にわたり築き上げた関係はかけがえのない財産であり、「信頼と実績」はもちろんのこと、これからも「地域に根差し、心で繋がる企業」でありたいと願っております。

社員一同「創造・誠実・実行・感謝」という社訓を常に心がけ、地域に必要とされる会社であり続けるよう努力いたします。

また、安全は社員が働きがいを感じる会社環境があってこそ達成できるものと考えており、あらゆる社内の環境改善に目を向け、たゆまない努力を今後も継続していく所存でございます。



(緊急時避難ビルとして開放する森川組本社)



## 2. 安全方針



当社は、安全方針を「安全は、人の命と暮らしを守る根源であり、すべての作業に優先する」と定め、安全スローガンとして「みんなで考えリスクの低減、全員参加で災害ゼロへ」を掲げて安全衛生活動の基本としています。

また、当社では地域の皆さんの安全意識の高さにも注目して、合同防災訓練など様々な取組を町内会の方々とともにを行い、地域全体が安心して暮らせる社会の実現を目指すことも目標としています。



## 3. 安全衛生活動



当社では、年間の安全衛生活動として以下のとおり実施しております。

(1)毎年4月に安全祈願祭を函館八幡宮で行っています。祈願祭では当該年度における安全と社員と家族および社会の安寧を祈願します。

(2)5月には安全大会を実施しています。社員を中心に協力会社からも参加していただいています。

その際に、労働基準監督署や警察などによる安全講話を行っていただき、安全意識を高める機会として実施しています。

(3)安全週間と衛生週間（2回/年 7月・10月）に協力会社と当社安全委員による安全パトロールを実施しています。特に協力会のメンバーに現場の安全管理点検を実施してもらうと同時に良い取組を吸収していただく機会としています。

(4)店社安全パトロールについては、当社の所掌するすべての事業所を対象として、1回/月実施しています。

(5)旗の波運動を2回/年（4月・9月）に実施しています。運動では社員の他、交通安全協会と警察署にも参加していただき、国道5号沿いで安全運転の啓蒙運動をしています。

(6)本社に大型モニターを設置して、Webカメラによる施工パトロールを実施しています。モニターには各工事現場を常時表示し、現場の施工状況、特に安全対策などを常時監視しています。

不備を確認した際は速やかに現場に連絡し、改善を指示します。

(7)ICT技術の活用による安全対策では、地形の測量などで安全に人が立ち入れない場所では、ドローン（自社所有）等で地形データを取得することで安全に行っています。

また、重機械作業でも作業員などが重機に近寄る必要がないよう、建機にデータを連動させて安全に作業を行うよう対策しています。

(8)現場安全管理のシステム化では、協力業者の提出安全書類や当社の安全書類をデジタル化することで、業務の効率化を図るとともに、ペーパーレスを目指して対策を進めています。

また、現場安全点検でもデジタルシステムを導入して、確実な安全管理かつ業務効率の向上を目標に取組を進めています。



(社員および協力会社参加による安全大会)



(国道5号 旗の波運動)



## 4. 女性の活躍



当社では技術系女性社員の採用と育成に力を注いでいます。現在、女性技術者として土木・建築部併せて7名が所属しています。

業務内容としては、施工管理、DXi技術開発室、建設DX担当、BIM/CIM担当などとしています。

また、育児休暇や働きやすい時間の設定、自宅におけるリモートワークの推奨を会社が推進しており、女性が長く勤められる社内環境の確立を目指しています。

工事現場では女性特有の目線で現場全体の管理をするともに、持ち前の明るさで現場全体の雰囲気が良くなっています。



(当社の技術系女性社員)

女性技術者は20代の若手ばかりなので、今後の活躍に期待するところです。



## 5. その他の取り組み



当社では、現場における安全対策、地域住民の安全対策の他、ボランティアなどの活動を積極的に推進しております。

(1)DRB（災害支援基地）ネットワークは、当社独自の取り組みで、平成27年から実施しています。

現場と本社および奥尻町青苗出張所などに、パンの缶詰、水など食料品とシート、土嚢、ロープなどの仮設資材を備蓄し、災害時に地先住民に提供するものです。

過去に熊本地震や胆振東部地震などで緊急支援物資の提供を行っています。

また、本社ビルは5階建となっており、周辺には住宅や小学校、福祉施設などが多く点在していることから、津波警報時などに緊急避難ビルとして開放する旨の協定を周辺町会と締結しています。



(備蓄品 水・パンの缶詰など)

(2)当社のマスコットキャラクター（もり造・もり美）を起用して、安全看板などに表示、身近なメッセンジャーとして地域の方々に安全啓発しています。

(3)当社では、安全施設として使用する仮設材の開発をしています。

名称は「コーンロック」で、風速30m程度でもカラーコーンが転倒することなく自立、安定させる鋼製の治具です。

国土交通省で推進しているNETIS（新技術情報提供システム）に令和3年に登録されました。

令和6年には、VEになり掲載期間が10年に延長されました。



(鋼製治具コーンロック NETIS;HK-210008-VE)

(4)当社では平成22年から、函館市の観光地ベイエリアの除草、清掃ボランティアを実施しており、今年で15回目の活動となりました。活動は毎年6月第1週の日曜日におこない、社員と協力業者を併せて約90人が参加します。

夏の観光シーズンが始まる前に除草清掃することで、美しい函館を観光客に散策して頂くためにこの時期に活動しています。

平成23年の東日本大震災でベイエリア一帯が津波被害を受け、植樹されていた五月と植樹帯の土に塩害が発生したため、樹木の水洗いと塩分を含んだ土を取り除いて健全な土砂で客土するなどの対応をしました。

平成30年には函館港若松埠頭が完成して大型クルーズ船が入港する機会が増え、さらに多くの観光客がはこだてベイエリアを訪れています。

令和4年には北海道開発局から「海をきれいにするための一般協力者の奉仕活動表彰」に選ばれました。

また、令和5年には函館市からも長く続いた活動として感謝状をいただき、今後の活動の励みとなっています。



(観光地ベイエリアの清掃活動)



## 6. むすびに



これからも、安全管理には最新の技術も取りこみながら社員、協力会社とともに、品質の高い建造物を提供していく所存でございます。

また、引き続き地域との調和、結びつきを大切にしていきたいことを念頭に、ボランティアや災害防止活動に尽力して参ります。

そして、地域から信頼され、愛される「株式会社森川組」を目指して努力して参ります。



もり美



もり造

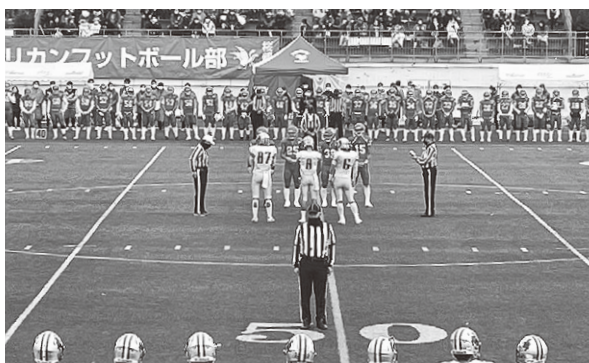
# 私の趣味

## 私の趣味について

東亜建設工業(株) 北海道支店長 小林 孝範

### 【学生スポーツ観戦】

趣味は何ですか？と改めて問われると皆さんは何と答えますか？私の趣味は年齢とともに変化しています。小学生の頃はプロ野球観戦（巨人戦）、中学生の頃は部活動に没頭し、高校生になると音楽鑑賞（オフコースやサザン）を楽しんでいました。大学生時代は、スキーや登山に熱中し、社会人（子供が生まれると）になると、学生スポーツ観戦が趣味になっていたような気がします。子供が小、中学生の頃は、野球のクラブチームに所属し、高校生になるとラグビー部、そして大学生時代はアメリカンフットボール部に所属していたので、週末になると子供の試合観戦を満喫していました。子供の試合を見に行くことは、趣味というより生活の一部になっていたような感じです。学生スポーツの試合は、一発勝負のところがあり、真剣勝負ゆえ、本当に熱くなります。接戦で勝利した時は、今まで体験したことがない興奮や感動を覚えたのを今でも思い出します。今でも帰省した時は、子供が所属していたチームの試合観戦に行っています。子供の後輩達が出ている試合は、応援にも熱が入ります。



アメフト試合前

### 【ジム通い】

もともとスポーツ自体が好きなので、社会人になってから始めたゴルフも趣味と言えるかもしれません。しかし、ゴルフは雪が降るとコースがクローズになってしまいますので、北海道に転勤になってからは夏の間しかゴルフを楽しめません。その代わりに、週末になるとジムに行くことが趣味になっている気がします。1日中デスクワークをすることもあり、ストレスが溜まっている時などには、ジムで汗を流すことが気分転換になります。ジムでは泳いだり、走ったり、筋トレしたり、とにかく汗をかき、ヘトヘトになるのを楽しんでいます。しかし、本当の楽しみはジムの後のジャグジー風呂とサウナかもしれません。そして帰宅してから飲むビールがとてもおいしく感じます。今では、「お風呂やサウナに入りに行こう」「終わったら美味しいビールを飲もう」という意識でジムに行っていることが苦じゃなく続けられている要因だと思います。ジム→サウナ→ビールの流れは、日常生活からのリフレッシュに最高のルーティーンになっています。

### 【寺院巡り】

もう一つの趣味は寺院巡りかと思います。私は横浜から単身赴任で札幌に来ているので、帰省した時は、鎌倉の寺院巡りをしています。昔は、お年寄りの行く場所とか、初詣に訪れる場所と言われていた寺院ですが、最近は、御朱印帳の流行で、たくさんの方が寺院巡りをしています。都会から離れ、森林の静寂の中、無言で手を合わせて祈る時間は、自然と自分の心を落ち着かせてくれます。また、訪れた



明月院 (参道)



明月院 (悟りの窓)

寺院の歴史を知れば、その土地への愛着も湧いてきます。鎌倉は歴史がある町であるため、大小含め120もの寺院があります。そのため、週末に寺院巡りをするときには、ゆっくり電車と歩きで廻ることにしています。最近では、寺院のそばにある茶屋で和菓子と抹茶を頂くのが日課となっています。空気が澄んでいる中、甘い菓子と抹茶は、幸せな気分につながります。

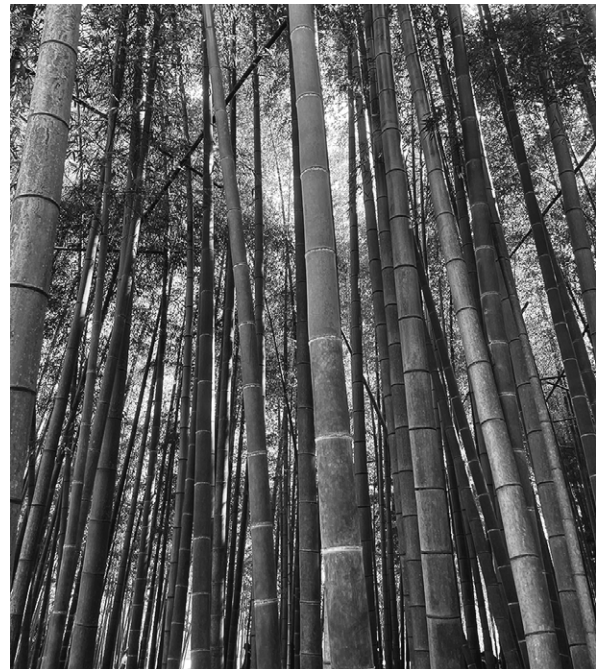
ここからは、鎌倉で非常に有名な寺院を紹介します。

まずは、北鎌倉にある「明月院」です。「明月院」はあじさい寺の名前でも有名であり、鎌倉時代のはじめに建立され臨済宗建長寺派のお寺です。梅雨の時期には、あじさいの花が咲き乱れ、「明月院ブルー」と呼ばれるようになっています。毎年梅雨の時期6月中旬から下旬の頃の明月院は、平日でも混雑で、観光客を含め行列が絶えません。混雑を避けたい方は、早朝か閉門直前に行くことをお勧めします。もちろん、梅雨時期に行くことが見所ですが、明月院の魅力はそれだけではありません。

紅葉のシーズンもまた映える美しさです。また、本堂の奥には、有名な円窓「悟りの窓」があり、奥の庭園を見ることができます。その「悟りの窓」は

禅の心を表しているそうです。皆さんもぜひ一度窓を覗いてみてください。

次に「報告寺」を紹介します。「報告寺」は、鎌倉時代に開山した寺院です。近年では「雪国」の著者である川端康成が近くに住んでいたそうです。「報告寺」の見所は、何といても2000本もの竹があることで知られ、通称「竹寺」とも呼ばれているところです。2000本の竹が直立する姿は、庭師がその一本一本の状況を確認し、手入れをしているそうです。一年を通してまっすぐ伸びる竹の力強さは、見ていだけで心が和みます。また、柔らかな木漏れ日が差し込む散策路を歩けば、歴史を感じられます。竹林以外にも私が大好きな抹茶が味わえる「休耕庵」がありますので、ぜひ一度立ち寄ってみてください。



報告寺 (竹寺)

#### 【おわりに】

令和6年(2024年)4月より支店長に就任し、約1年が過ぎました。5年間当支店の土木部長という立場で業務に従事しており、少しは北海道のことを理解していた気がしましたが、この1年間で多くの方にご指導やご助言を頂き、大変勉強になり感謝しております。今後も、この北海道のインフラ整備のため、微力ながら貢献できればと思います。引き続き、どうぞよろしくお願いいたします。

## ◎事務局だより◎

### ◎行事

#### 1. 室蘭・釧路・根室・帯広・網走地区地域懇談会

月日：令和6年9月3日

場所：ANAクラウンプラザホテル釧路

内容：官民協働の取組について

#### 2. 第111回 日港連セミナー

月日：令和6年9月12日

場所：名古屋クラウンホテル

内容：中部地方の港湾の情勢について ほか

#### 3. 第112回 日港連セミナー

月日：令和6年10月21日

場所：アジュール竹芝（東京）

内容：気候変動と生物多様性 ほか

#### 4. 第2回 広報委員会

月日：令和6年10月21日

場所：メール照会

内容：「北のみなと」113号（R7.1 発刊）掲載内容について

#### 5. 日港連 運営委員会・理事会・港湾局、航空局要望

月日：令和6年10月22日

場所：アジュール竹芝（東京）

内容：日港連表彰、令和7年度・8年度会費、令和6年度決算（見込）、令和7年度予算（案）。

日港連運営委員会・理事会、国交省港湾局・航空局要望会 藤田会長出席。

日港連理事会 小林副会長出席。

#### 6. 第2回 技術委員会

月日：令和6年11月14日

場所：ホテルポールスター札幌

内容：北海道開発局港湾空港部長要望事項及び港湾空港工事報告会発表議題の選定。

#### 7. 常任理事会

月日：令和6年11月25日

場所：ホテル札幌ガーデンパレス

内容：北海道港湾空港部長要望書（案）、日港連会長表彰候補者及び港湾空港工事報告会等について。

#### 8. 港関係団体連絡会と北海道開発局との意見交換会

月日：令和6年11月26日

場所：ホテルマイステイズ札幌

内容：入札契約、施工に関する課題についての意見交換。

#### 9. 経済と暮らしを支える港づくり全国大会

月日：令和6年11月28日

場所：ANAインターコンチネンタルホテル東京

内容：港湾の整備・振興に関する要望。

#### 10. 港関係団体連絡会と北海道との意見交換会

月日：令和6年11月29日

場所：かでの2.7

内容：入札契約、施工に関する課題についての意見交換。

#### 11. 日本港湾空港建設協会連合会と北海道開発局との意見交換会

月日：令和6年12月11日

場所：ホテルポールスター札幌

内容：港湾空港建設業に関する課題についての意見交換。

#### 12. 港関係団体と北海道開発局との意見交換会

月日：令和6年12月12日

場所：ホテルポールスター札幌

内容：港湾空港漁港建設業に関する課題についての意見交換。

## ◎業界だより◎

### ◎賛助会員代表者の交代

●株式会社チスイ札幌事務所

所長 若松 洋昭 令和6年10月

## ◎広報委員会だより◎

令和6年12月現在の広報委員は以下のとおりです。

委員長	小林 孝範	東亜建設工業(株)
副委員長	古田 圭也	東洋建設(株)
(部会長)	宮部 秀一	(株)菅原組
(副部会長)	上野 強	釧石工業(株)
	阿部 勝	五洋建設(株)
	石川 洋一	あおみ建設(株)
	今林 弘	菱中建設(株)
	岡元 節雄	(株)不動テトラ
	小玉 茂義	東亜建設工業(株)
	相馬 洋	近藤工業(株)
	高木 哲夫	萩原建設工業(株)
	千葉 不二夫	勇建設(株)

\*広報委員会からのお願い

1. 新造船（機械・装置含む）の紹介
2. 注目される工事の着工、完成
3. 工事現場の紹介
4. 各地域の技術研究会・イメージアップ事業

等のご投稿をお待ちしております。



風力発電資機材の搬入状況



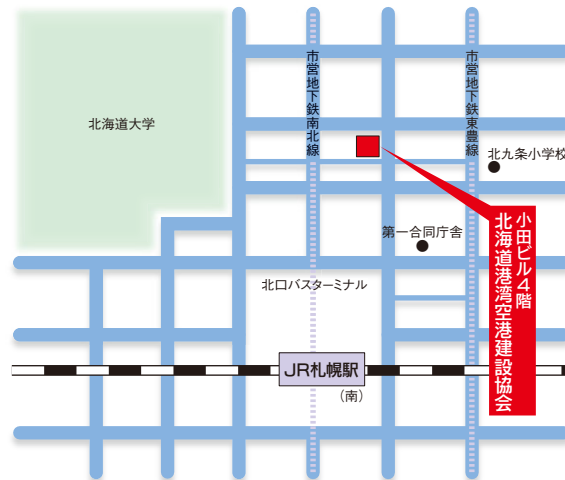
砂の荷役状況



万代物揚場(-3m)施工状況

(提供：小樽港湾事務所)

## 北海道港湾空港建設協会 案内図



## 会報「北のみなと」No.113

発行年月 令和7年1月

発行 北海道港湾空港建設協会 会長 藤田 幸洋  
 札幌市北区北9条西3丁目10-1 (小田ビル4階)  
 TEL(011)707-4731 FAX(011)707-4733  
<https://www.hokkaido-kkk.jp>  
 Email:hkkk@h4.dion.ne.jp

編集 北海道港湾空港建設協会 広報委員会  
 編集責任者 宮部 秀一

印刷 (株)須田製版